

病虫害発生予察指導情報

(ナシ・シンクイムシ類 No.1)

平成26年8月5日
鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

7月下旬現在、性フェロモントラップの誘殺数はほぼ平年並であるが、前世代は例年と比較してやや多く推移した地点もみられた。今後、シンクイムシ類の発生密度が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

2. 情報の根拠

- (1) 7月下旬現在、シンクイムシ類の誘殺数はほぼ平年並である(図1、2)。
- (2) 一部の園では、収穫果実にシンクイムシ類の果実被害がみられている。
- (3) 向こう1か月の気象予報は、本種の発生にやや好適である。今後、シンクイムシ類の発生量が増加する時期を迎えるため、防除の徹底が必要である。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 二十世紀、豊水などでは、アグロスリン水和剤2,000倍液、テルスターフロアブル3,000倍液などを使用し、収穫前の防除を徹底する。
- (2) 晩生品種(新高、新興、王秋他)は、8月中下旬～9月中旬頃が重要な防除時期となるため、アグロスリン水和剤2,000倍液、テルスターフロアブル3,000倍液、サムコルフロアブル10の5,000倍液、フェニックスフロアブル4,000倍液などを使用し、定期的に防除を行う。
- (3) 園内のクリーン作業を徹底する。授粉樹の摘果、裸梨、被害果の徹底処分など、シンクイムシ類の発生源は早急に除去する。

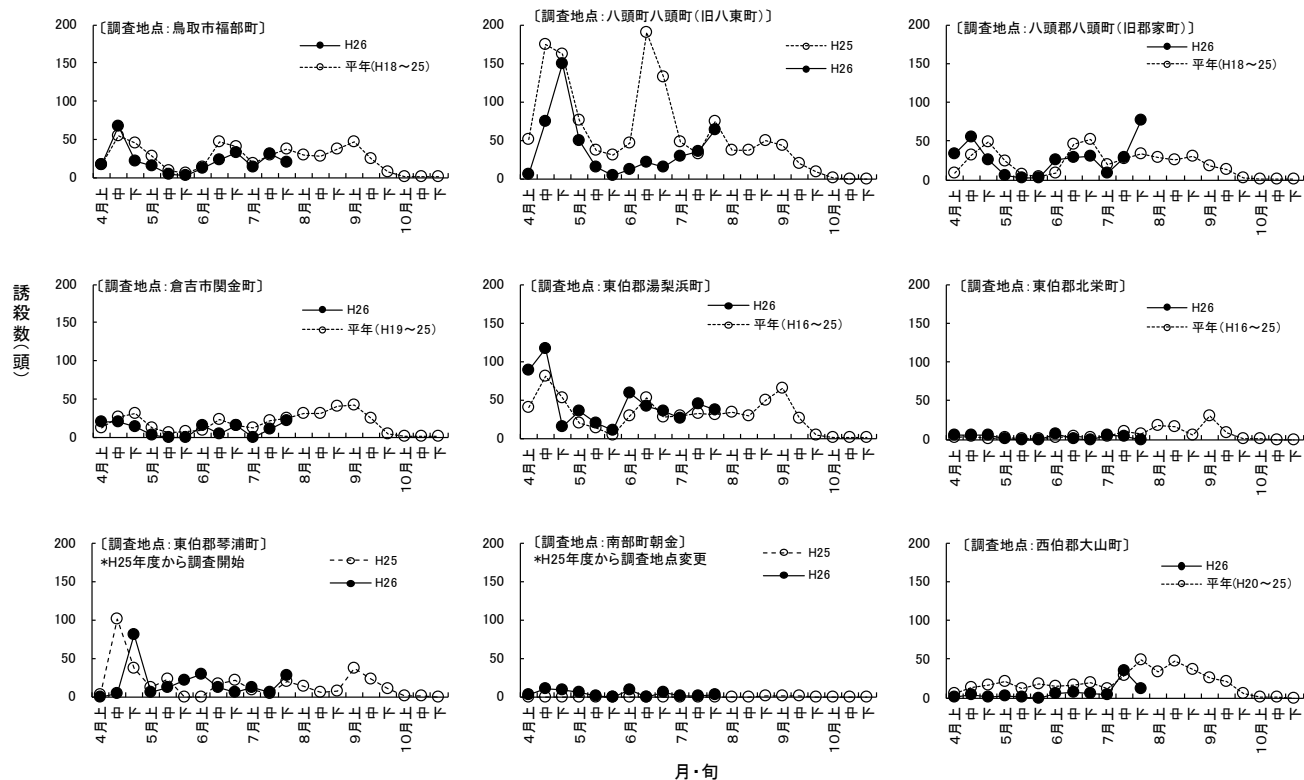


図1 フェロモントラップにおけるナシヒメシクイ雄成虫の誘殺消長

*調査は各普及所、防除所で実施

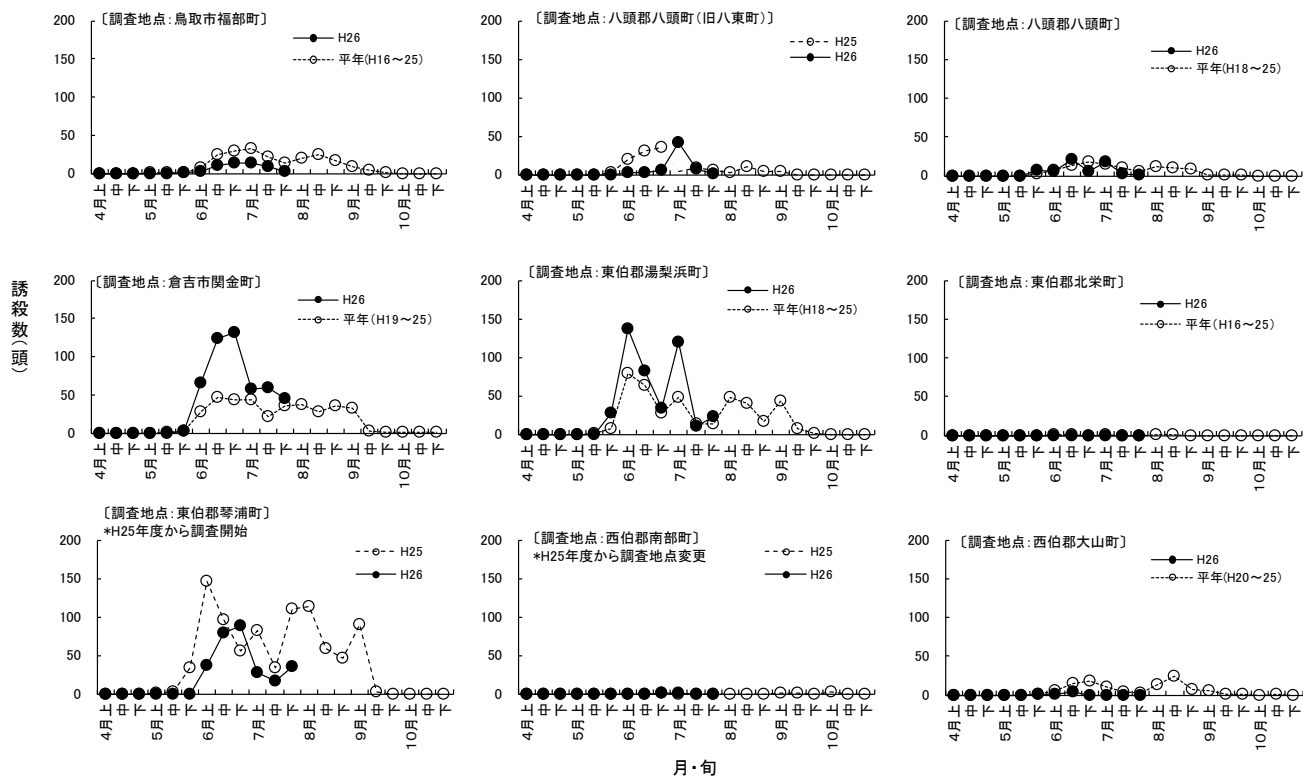


図2 フェロモントラップにおけるモモシクイガ雄成虫の誘殺消長

*調査は各普及所、防除所で実施